Title	スローワーク(テーブルディスカッション発題)
Author(s)	佐藤, 真史
Citation	聖学院大学総合研究所紀要, No.58, 2014.11 : 163-165
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5314
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

【第三回東日本大震災国際神学シンポジウム】

テーブルディスカッション発題

スローワーク

佐藤真史

1. スローワークと祈り

日本キリスト教団東北教区では、震災直後に被災者支援センター・エマオを立ち上げ、「スローワーク＝丁寧な出会い」と「祈り」を活動の軸として、仙台、石巻でワークを継続している。特に大切にしているのは、この二つの軸がバラバラなものとしてあるのではなく、むしろつながるようにするということである。祈りから「スローワーク」へ押し出されていき、そして祈りに帰ってくる、この循環を私たちはとても大切にしている。

毎朝、毎夕のミーティング時に、皆で輪になってお祈りをしている。毎月一一日には、地震の起こった午後二時四六分にお祈りをしている。祈りを大切にする意味は、痛みの中にある被災された方たちを常に思い、想像力を働かせ関わり続けるという点にある。それは何よりも神さまに耳を傾けることだと思う。

そしてもう一つ大切にしているのが「スローワーク」である。この「スロー」とはもちろん「のんびり、だらだら」という意味ではなく、「ゆっくりでもいいので、丁寧にお宅の方のペースに合わせて」という意味である。例えば、支

援に入るお宅によっては、ワークをしてくれることも嬉しいけれど、一緒にお茶をすることを楽しみにされている、というお宅もある。「お茶をしましょう」と声をかけられたら、目の前のワークがたとえ途中でも喜んでお茶をするようにと、ボランティア・ワーカーの方たちにはお願いしている。たった四時間の間にお茶も大切にするワークスタイルは、非効率的かもしれない。けれども、そこで生まれる「出会い」を大切にしてほしい、と私たちは願っている。その「出会い」から、本当の回復が始まると考えているからである。

2. 通い続ける大切さ

初めてワークに来てくださった方に、特に大切な点としてお伝えしていることがある。それは、もう「泥かき」や「支援物資」といった「緊急支援」は終わり、生活再建支援・仮設支援を中心とする「中長期支援」に入っているということである。

エマオがずっと関わらせていただいているS仮設では、六〇あった世帯が二四世帯五〇人にまで減った。残っていらっしゃるのは、集団移転の方や経済的理由や障がいのために出ることができない方たちである。この春から復興住宅への移転が少しずつ始まっているが、残されていく人たちの気持ちはどうであろうか？　想像力を働かせ続けたい。

三年半が経つ今、多くの支援団体が縮小・撤退を余儀なくされている。しかし、つながりが分断されつつある仮設の現状を目の当たりにするたびに、エマオ（＝復活の主が共に歩んで下さっている！）そして教会が、撤退をしてはいけないと強く思う。むしろ仮設に住む方たちが少なくなっている今だからこそ、継続的に通い続けさせていただくことが大切だと思う。

そのような中で、東北教区では少なくとも二〇一六年度一杯までエマオを継続すること、そしてさらに「仮設住宅が

ある限り」何らかの支援をつなげていくことが決められた。

3. 祈りの課題

教会につながる皆さんにお願いしたいことは、何よりも「祈りに覚え続けてほしい」ということである。今もまだ仮設生活を余儀なくされている方たち、生活を立て直すために歩まれている方たち、傷を抱えたまま歩まれている方たち、放射能汚染の中で生きざるをえない子どもたち、被災した移住女性の方たち、支援のために働く方たち……祈りの課題は尽きない。皆さんお祈りください。